資料4

令和7年度第1回ネウボラ会議　テーマごとの課題

部会	課題	具体的な内容	その他の記載
①こどもまんなか社会に向けた環境整備			
就学前サービス部会	子育てへの不安	育児不安を持つ母親が増加	
		子育てを学ぶ機会がない	
		子育て論、家庭論を学んでこない	
		妊娠前からの教育体制を充実	
		「失敗しない」を求められるプレッシャー	
		成功のロールモデルがない	
		ちゃんとしなきゃ、ちゃんとさせなきゃと考える親も多い	
		親への心理的ケアを日常的にできるといい	
	周囲の理解	他の世代が日常的に子育て世帯への理解を示す	
	親同士の交流	母親同士話したい人もいるが、集う場に出てこない親も多い	
	子ども・若者の意見反映	**地域内部で子どもや若者の意見を聞く場がほとんどない**	
	その他	「こどもまんなか」が地域で浸透していない	
発達部会	居場所の確保	障がい児は増加しているが、施設と職員が不足	
		居場所の確保（放課後等デイサービスなど）	
		放課後、長期休暇の居場所	
		学童の人数に合うスペースと指導員	
		学校卒業後の居場所（市外を選ぶ人が多い）	
	地域との交流	互いの関りが弱い。地域の関りを災害時や祭りなどで持つ	
		地域との交流の機会を増やす	
	目指す姿の明確化	「えなっ宝が輝くまち」とはどのような姿を目指しているか	
		「こどもまんかな社会」とは誰？どこ？組織？イニシアティブ？	
	ハード整備	**ハード面の整備（支援金、公園など目に見えるもの）**	
		ソフト面の整備（親、家庭）	
		遊び場や広場がまだ少ない	
		施設のバリアフリー化	
セーフティネット部会	交流の機会	食を通じた三世代の交流	
		高齢者と子どもの異世代交流	
		親同士の交流、１歳の誕生日会（ひきこもらないように）、プレゼントでつる	
		ひきこもりの人の自宅へ訪問し、それぞれの特性を生かして何かしてもらう	
	人材育成	**ジュニアリーダーやユースワーカー（お兄さん、お姉さん）などの取組の充実**	
	居場所の確保	自主勉強ができる場所、話したり食べたりできる子どもの居場所が必要	
		居場所でも仮想空間（ネット等）	
		地域と連携して地域で小さな居場所づくり	
	情報発信	インスタ等、恵那市でやっているところへ、こころの相談や居場所等を発信してほしい	
		こども計画を全市民へ情報発信！	
	地域との協力	地域の格差が大きい	
		市中心部外の交通手段が少ない	
		地域自治区と子どもの移送について検討する機会を	
		地域の年配者が若者の声を批判しないで寄り添って聞く意識改革を	
		図書館を使える子、使えない子（自分で行けない子）がいる	
	意見反映	**小学生から高校生は自分たちの意見をどこに行けば聞いてもらえるのか。窓口はあるのか。子ども市政モニターやってみては。**	
		意見を言う場所・窓口⇒フィードバック⇒やりがい感につながる	

部会	課題	具体的な内容	その他の記載
②こども・若者等の命と健康を守る支援の充実			
発達部会	相談できる環境	困ったときに相談できる第三者・受け皿	
		相談しやすい環境づくり（保護者が知る機会）	
	インターネットの正しい利用	SNSにつながったことに起因する危険（いじめ、性暴力、自殺）	
		スマホゲーム利用が原因の不健康、目（視力）悪影響。	
		子どもの知識がインターネットから得るものが多いと思う。正しい知識なのか、危なくないか確認できている？	
	医療	医療機関の充実	
セーフティネット部会	教育	学校にソーシャルワーカーの配置	
		自分を大切にすること、相手を大切にすること、命の大切さ等、小中高切れ目なく教えてほしい	
	食育	市内の食材を使った料理教室（親子）	
		耕作放棄地を利用した農業体験	
		中学生が地の食（食文化、地産地消）「朴葉寿司」を知らないので給食で提供してみる	
		食を通じた支援、学びの場、管理栄養士の配置	
部会	課題	具体的な内容	その他の記載
③こども・若者の将来を支える社会づくり			
小中高サービス部会	文化活動	読書活動を通じた「学び」の機会提供	
		体験活動の場の充実（科学館など）	
		ブックトーク（おすすめの本紹介）好きな本、ぼろぼろになる程、図鑑	
	人材育成・確保	こども園・学校に人材を。1人支援員が増えるとスムーズな教育ができる	
		ボランティア活動	
		教室の活動をきっかけに地域へボランティアへ	
		地域の方、おじさん・おばさんが講師となって恵那の特産、伝統、季節の行事を教える。高齢化や後継者が課題？	
		さまざまな職種に触れる機会の充実⇒起業する人	
	つながり	**どこにも行かない不登校児への対応**	
		不登校要因はさまざま。本人が話しやすい環境（人、場所）が大事	
		不登校要因はさまざま。保護者が相談しやすいように、どこへいけばいいか分かるように、ワンストップにすべき	
		不登校でも学童クラブには来たい	
		不登校中学生が、進路について相談ができる、情報を得ることが大事	
		不登校児も子ども教室へは参加。ボランティアでサポートする	
		ひきこもりからのステップアップの場所としての図書館（社会とのつながり回復）	
		中学卒業後の支援	
		フリースクールの利用推進	
		室内で遊ぶ場所がない	
		コミセン等を活用した居場所づくり（誰かとつながっている）	
		乳幼児から小学生の子どもが過ごせる場の充実（例：こまきこども未来館、グリーンパレス春日井）	
	その他	支援のいる子との共存	
		大金を持ち歩く小学生	

部会	課題	具体的な内容	その他の記載
④特に支援を必要とするこども・若者への支援			
就学前サービス部会	外国人	**外国人の増加**	
		外国籍の園児が増えている。入園児に通訳など対応している	
		外国籍の保護者同士がコミュニケーション取れない	
	医療	皮膚科がほしい。肌トラブルで悩んでいる人が多い	
		病院のクチコミを知りたがっている	
		小児専門医が不足	
		障がい児、医療的ケア専門の保育教諭の育成	
		医療的ケアが必要な子の就園に条件がある	
	その他	リーダーを育成する	
		この20年、30年で格差が拡大しているという認識が希薄	
		特に政策決定層（地域では高齢者）に支援の必要性についての理解が薄い	
		子どもだけでなく家庭自体に支援が必要なケースが増加	
		経済的支援は助かる。もう少し「どんな人も受け入れます」という空気感を出したい	
発達部会	理解と関わり	親の理解（親教育）	
		地域の人との交流機会が多いと特性などを理解してもらいやすい	
		周囲の理解	
		障がいに対する理解・啓発	
		親や大人の責任で地域の子どもは地域で育てる	
		大人との関わり手伝い。認められる肯定感が大事	
		年長保護者が安心して就学後の支援を選択できるように	
		就労している保護者が利用しやすい発達支援施設	
		自傷、他害があったときの止め方が周りから見ると虐待に見えてしまわないか不安	
	不安の解消	障がいのある子が大人になった時、親が高齢で世話ができない⇒兄弟姉妹への負担	
		子どもを見るために仕事ができない、または祖父母に子どもを見てもらうことで今後の不安を抱える保護者がいる	
		施設入所する年齢が早い方が、子どもにとっては馴染めると思いますが、保護者が手放せないのでは。	
		自立するための訓練をしている施設はどれくらいあるのか。	
	支援の充実	放課後等デイサービスを利用できる施設を増やす	
		にじの家、おひさまを利用できる年齢の引き上げ	
		発達支援が夕方の時間帯利用できるように	
		不登校でどこともつながっていない子への支援	
		学習空白・困難者に対する学習支援	
		障がいのある子の通学支援（送迎）	
	学習の機会	中学校卒業後の不登校生徒の追跡。通信教育	
		障がいのある子は性に対する理解が浅い。どうやって伝えていくか（人の体に触らない、人の前で服を脱がない）	
	連携	関係機関の連携	

部会	課題	具体的な内容	その他の記載
⑤切れ目ない教育・保育サービスのもとで母子ともに健やかに育つ			
就学前サービス部会	人材確保	保育職を目指す学生が減少	
		保育職員の高齢化	
		子育てが落ち着いたら復帰してほしい	
		中高生への発信（職業講話、園での体験実習、他にないか）	
		若手職員が話に行く	
		マンパワー不足	
		スタッフの教育の質向上	
		求められる支援と提供可能な支援のギャップがある	
	意見反映	**恵那未来キャンパス構想にある詳細なアンケート調査結果を活用すべき**	
	居場所の確保	乳幼児親子が出かける場は足りていると思う（プラザ、支援センター、社協など）	
	情報発信	子育て環境の良さを外部（特に移住希望者）に積極的に広めるべき	
		成長過程ごとに学校以外の場で情報提供	
		サービス全体を把握できる機関	
		全ての人に届く情報の伝達方法	
		行政が発信してもたどり着けない人がいる	
	その他	園児数が減っている（串原、上矢作、飯地）	
部会	課題	具体的な内容	その他の記載
⑥心身ともに健康に過ごし、安心できる環境で教育を受けながら育つ			
小中学校サービス部会	学童保育	学童保育を必要とする家族すべてが利用できるように	
		学童保育と放課後子ども教室がもっといい形で協力し合えないか	
		学童保育の職員(指導者）を探すことに苦労している。人材バンクなどの整備	
		子どもが減少しているが学童の利用は増加しているので手狭になっている	
		学童保育では指導員不足えをどうしたらいいかが大きな問題。担い手はどこかにあるのでは	
		学校の支援員さんの数的充実⇒朝、放課後も対応できる人	
		利用者の変化	
		ニーズに合った施設運営	
	居場所の確保	高校生の居場所（勉強以外）	
		子どもの居場所確保（図書館、みらいキャンパスなど）	
		子どもの発達について気軽に相談できるといい（子育て支援、ドクター、心理士など）	
		遊びを通して運動できる場⇒サスケのような施設	
		部活動の地域展開	
		大井児童センターは第二小の子たちが歩いて来るのが大変。居場所として大井第二近くでも	
		子どもの「居場所」と「生活の場」が同じくくりにされている感じがする。居場所の充実を	
		学校のルール⇒子どもたち自身が必要だと思うものに	
		学校の同調圧力、正解主義の考え方を転換	
		体罰・不適切な指導⇒現場の者に研修を	
		子ども会で集まる機会が年数回で交流していない	
		SSW（スクール・ソーシャル・ワーカー）の連携を取るSSWがいると効率的に活動できる	
	その他	保護者アンケートより。国際交流を計画し、同級生の中に異学年交流の中で	
		SNSで加害者にならないための教育	

セーフティネット部会	体験活動	習い事をしたいけどできない子。お金の問題より送迎、当番等	
		部活動がなくなってしまう	
		中学生は職業体験がある。高校生でも職業体験と有給インターンシップの導入	
	教育環境対策	**大学誘致⇒人が増える⇒定住になる**	
		大学がない。目指す学校が近くにない⇒流出	
		大学がない東濃地方に1つ確保	
		地元に残って大学へ通学している学生へ交通費の補助	
		省庁の地方移転を東濃へ	
	I・Uターン	若者家庭が恵那市へ定住しやすい助成金や土地のプレゼント	
		IターンやUターンで恵那へ戻って来た時のお祝い金や助成金	
		Uターンしたいと思える教育	
	夏休み支援	**夏休み期間中の給食が食べられない子への支援（フードパントリー、子ども食堂、地域食堂）**	
		子育て世帯へお米券を配る	
		子育て家庭へ定期的にフードパントリーを行う	
		夏休み会の支援キャンペーンで夏休みの子どもに安く提供してみては（食事会、お弁当会）	
	働く場の確保	**東濃地区への企業誘致**	
		東濃で企業確保。市では難しい	
		恵那を離れず働けるところを小さい時から馴染ませてほしい	
		恵那で具体的にどういう形で働けるか、リモート等で働ける等若者向けのセミナー等を定期的に開催してほしい	
		高校生が市外へ行ってしまうのは就職先が少ないから	
		女性10～20代を市内に定着するための施策を。産む前の人の定着	
	性教育	**アフターピルについて中学校の保健で正しく教育する**	
		性犯罪の防止について、子どもの学習する場、保護者や地域の大人も学習する機会が必要	
部会	課題	具体的な内容	その他の記載
⑦切れ目ない支援により将来へのステップアップに希望を持って過ごす			
小中高サービス部会	医療	医療機関の充実	
		医療機関少ない	
	自立支援	ライフステージのイメージ	
	働く場の確保	**恵那で働きたいと思えるように職場体験の充実・見直し**	
	保護者支援	親の支援	
		放課後子ども教室は直通電話を持ったことによりお迎えの連絡など便利になったが保護者同士やスタッフ、顔見知りがもっと関りを	
		放課後子ども教室は迎えに来れない保護者がネックで参加できない子どもがいる。学童との一体化を模索中	
		放課後子ども教室は保護者当番やサポーター不足。わが子と一緒に他の子も地域で一緒に育てる	